

# 4 FACTORY NEWS

2011 APRIL

改めまして、この度の未曾有の大震災によりお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆様、またそのご家族の方々に対しまして、心よりお見舞い申し上げます。

一日も早い復旧復興をお祈り申し上げます。

田中電気株式会社

## ありがとうございます！お陰様で100号！

お探し物はありませんか？秋葉原でのお探しの、わからないことなど秋葉原電気街のナビゲーター(道案内)として2001年(平成13年)9月にスタートしたファクトリーニュースも、お陰様で100号を迎えることが出来ました。

これからも、お客様の困っていることを親身になってお手伝いいたします。よろしくお祈りいたします。

## “MCA緊急連絡システム”が活躍！

### 秋葉原本社から各営業所へ一斉連絡

3/11(金)午後14:45過ぎ、東北関東大震災直後、携帯電話も固定電話もほとんど繋がらない中、秋葉原本社からMCA緊急無線システムで、高円寺・浦和・一之江等の各事務所に一斉連絡！社員の安否を確認。日頃の4S運動(整理・整頓・清潔・清掃)の徹底により、落下物等も少なく、大きな被害はありませんでした。

## 復旧支援無線機 “業務用デジタル無線機” 50台を支援！

大震災直後、岩手県に20台、福島県に30台を、総務省東北総合通信局を通じ各災害対策本部に弊社より緊急支援させていただきました。特に防水・防塵・衝撃に強い業務用デジタル無線機は、寸断された災害現場や、被災者の方々の救済および被災地の復興にお役立ていただいております。孤立させない初動対応と機動力、復旧支援とその後のケアとしてこの無線機を使っていたいただいております。

### 秋葉原UDX1Fの物資支援活動に協力



緊急支援させていただいた業務用デジタル簡易無線機。通信距離2~3km、最大約5kmの範囲で通信可能。寸断された被災現場の復旧復興を全力で応援しています！

お問合せは **0120-150-712** [info@tanaka-denki.co.jp](mailto:info@tanaka-denki.co.jp) 9:00~18:00 (土日祝休)

NEW! 新製品紹介

## STANDARD 携帯型 デジタルトランシーバー VXD-10



田中電気販売価格  
¥49,800 (税込)

出力5Wのハイパワータイプ

今回はスタンダードから新しく発売されたハイパワーデジタルトランシーバーをご紹介します。

このVXD-10は市街地で約1km、障害物の少ない場所なら約3km～4km程の距離で通信が可能なトランシーバーです。VXD-10はトランシーバー同士で通信しますので通話料金はかかりませんし、携帯電話の電波が届かないような場所でも通信が可能です。

また、防水性能も優れております(IP57相当)ので水辺でも安心して使用できますし、周りが騒がしい場所でも大事な連絡を聞き逃すことのない700mWの大音量モデルです。

オールインワンパッケージですので無線機本体・電池パック・急速充電器なども標準付属。

個人の資格や免許は必要なく、登録申請を行っていただくだけですぐに使用可能です。

自治防災の連絡手段として円滑なコミュニケーションが可能になるVXD-10、お求め、お問合せは秋葉原ファクトリー(田中電気通販サイト)までどうぞ!



リチウムイオン電池パックや充電器もセットです

## 会員限定おとクーポン第2弾完成! ドコモショップ秋中(あきなか) 田中電気直営ショップ 秋葉原中央通り店



ドコモショップ小林さんデザインの素敵なクーポン冊子! 当店スタッフが直接お店の方々と交渉して集めた、秋葉原選りすぐりの32軒の情報満載お得なクーポン冊子!(38ページ)マイショップ会員になっていただいた方に、もれなく差し上げます。詳しくは、0120-376-360ショップまでお電話ください!

## 合格おめでとう!



## MCPCケータイ実務検定に7名が合格!

お客様保護の為に総務省後援、ケータイ実務検定試験。合格者は前列左から auショップ中村健次、関口貴久、ドコモ法人久保沙也香、深津次郎。他、ドコモショップ星 豊能、浅野正義

## 江戸の歴史シリーズ

## 『水天宮』

No.52



水天宮の発祥は、今から約700年前にさかのぼります。壇ノ浦の合戦で、安徳天皇は祖母の二位の尼に抱かれて入水されました。官女の按察使局は「我等の霊を慰めよ」という二位の尼の命をうけ、筑後川の辺に小さな祠を建てて、その御霊をお祀りしました。これが水天宮の起源といわれています。

その後、久留米藩主有馬忠頼公により、現在の久留米市瀬下町に敷地が寄進され、現在に至ります。

東京の水天宮は、文政元年(1818年)に参勤交代のため江戸詰をしていた当時の藩主有馬頼徳公が、久留米水天宮からの御分霊を、江戸屋敷内(現在の港区・芝周辺)にお祀りしたのはがはじまりです。本来屋敷神として祀られたもので、一般の人がお参りすることはできなかったのですが、江戸っ子たちの信仰は篤く、堀越しに賽銭を投げ込む人が後を絶たなかったため、毎月五日の縁日に限り屋敷を開放して、一般の参拝を許可しました。人々は情け深いことを感謝する際に、有馬家と水天宮を洒落て「なさけ有馬の水天宮」と口癖のように言い合い、江戸の流行言葉となるほどでした。

日本橋蛸殻町界限は、人影もまばらな寂しい場所でしたが、水天宮が移ると共に商店が増え始め、大変な賑わいを見せるようになりました。その後、大正十二年の関東大震災で社殿は焼失しましたが、御霊代は隅田川にかかる新大橋に奉遷され無事でした。(その時の模様を記した石碑が新大橋の側に建てられています)現在の権現造りの社殿は、昭和四十二年十一月に建てられたものです。(東京メトロ半蔵門線・水天宮駅下車、日比谷線・人形町駅下車 少し歩く)

編集後記 この度の大震災で亡くなられた方々のご冥福を心よりお祈り申し上げますとともに、被災地の方々やそのご家族の方々に心よりお見舞い申し上げます。ガソリンや原子力発電から、太陽光・風力などの自然の力を利用する社会へと発展していく機会にしていきたいです。人気の“江戸の歴史シリーズ”筆者、勝野さんが亡くなられ今回で最後となりました。長い間本当にありがとうございました。ご冥福を心よりお祈り申し上げます。